

2023/5/23 (火)

朝の礼拝

聖書 創世記 2章 18-20節 (旧約聖書3頁)

主なる神は言われた。

「人が独りでいるのは良くない。彼に合う助ける者を造ろう。」

主なる神は、野のあらゆる獣、空のあらゆる鳥を土で形づくり、人のところへ持って来て、人がそれぞれをどう呼ぶか見ておられた。人が呼ぶと、それはすべて、生き物の名となった。人はあらゆる家畜、空の鳥、野のあらゆる獣に名を付けたが、自分に合う助ける者は見つけることができなかった。

生き物の名前

どうしてすべての生き物には名前があるのでしょうか。動物や植物には学名と俗名が、人には苗字と名前が、イギリスやアメリカではファースト、ミドル、ラスト・ネームと分かれ、ペットにも、そしてお互いに愛称、ニックネームで呼び合います。どうしてでしょう。

世界の神話には世界の起こりや理由が書かれています。原初史、先史時代とも言います。聖書では創世記1章から11章が神話です。どうして世界が造られ、なぜ働き、出産に苦しむのか、なぜ服を着るのか、そしてどうして生き物に名前がつけられたのかも書かれています。

創世記2章では最初に造られたのは人でした。そして神様は「彼に合う助ける者を造ろう」と獣や鳥などを造り、人がそれをどう呼ぶのか見ておられました。それで生き物の名前がつけられたとあります。しかし自分に合う助ける者は見つけることはできませんでした。

でも私は、神様が人間にすべての生き物に名前を付けるようにしたのは、人間に生き物を慈しみ、守り、育てる心を与えるためだったのだと思います。そして誕生の喜びには奇跡を思う心を、死別の悲しみには永遠を思う心を与えるためだったのだと思うのです。

(しばらく黙想しましょう)

すべての生き物を慈しみ、守られる主よ、恵みの雨を与え、新緑の目映い季節となりました。しかし私たち人間はあなたから尊い使命をいただいたのにも関わらず、自然の営みや生き物に心を寄せることを忘れてしまうことがあります。どうかすべての命と共にある恵みに感謝し、私たちが平和のうちに歩むことができるようにしてください。高校3年生は明日から中間テストが、また来週の体育祭も近づいてきました。どうか良き準備のうちに迎えることができますように。今日一日もすべてをあなたに委ね、喜びと感謝のうちに過ごさせてください。主イエス・キリストによってお願いいたします。アーメン